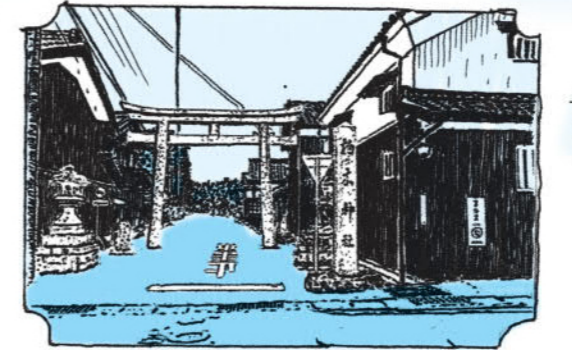


現代版東海道絵地図

水口宿西見附・柏木・横田の渡し

柏木地域の東の方を眺めると、水口宿の左手に古城山(水口岡山城跡)が見えます。
またその真には、鶴向山を中心に鈴鹿山脈の山々を望むことができます。

一里塚
江戸幕府が旅人の目印として里(約四町目)ここに設置したもので江戸・日本橋から京都・三条大橋までの間に百三十四あります。この地図には百三十三番目と百十四番目の二つが載っていますので、探してみてください。
塚の上は目印として種々たられていたが、模範のものが多くいます。



北脇の西端、美富久油造の横から北へは、柏木神社(わかみやえ)の参道。かつては道の中央には松並木がありました。

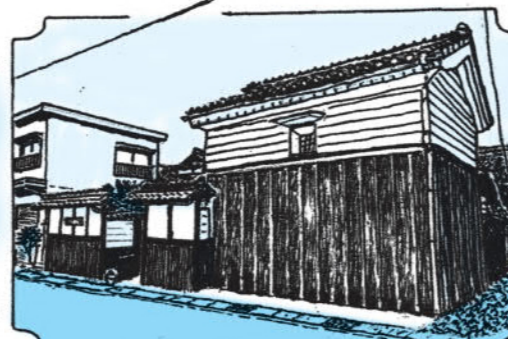


北脇中之町の交差点の角に建つ米新橋には、水口脇本陣の一部が移築されています。



古墳時代後期の集落遺跡(青銅の印が出土)北脇城跡

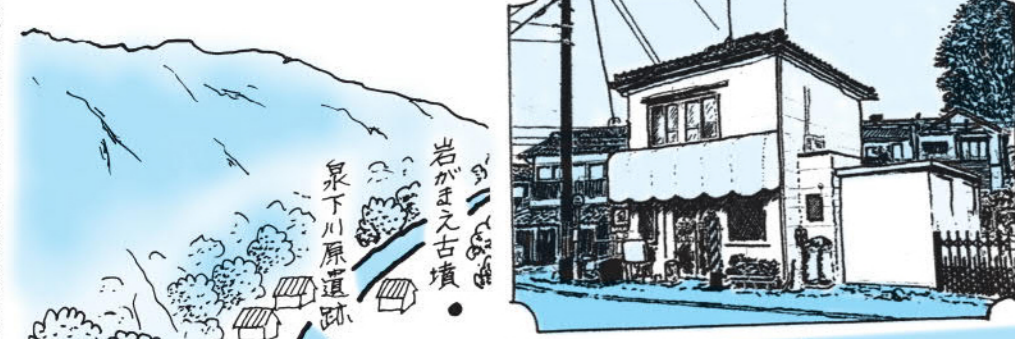
北脇本町の集会所(愛宕さん)流れる川が、おもしろい。



大半が破壊された残る部分は竹やかとまごい。



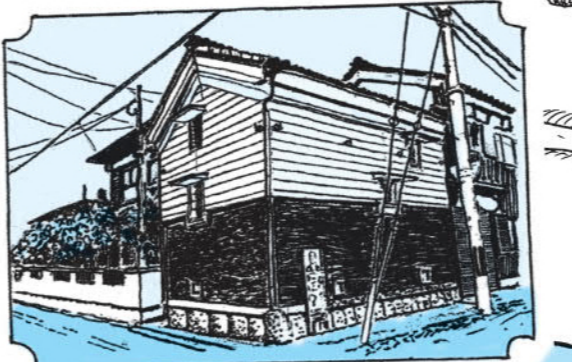
大正手は地番としては東と北脇の近年の大字名どおりまじり。



大正手は地番としては東と北脇の近年の大字名どおりまじり。

西見附からさらに西(京都方面)を眺めると、街道が直ぐに伸び、大正手を感じさせる泉の在り口付近まで見通すことができます。

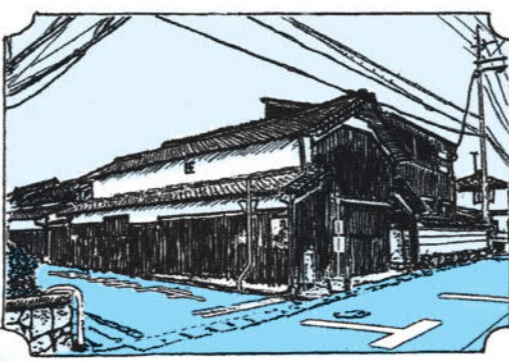
北脇繩手と松並木
東海道が一直線にのびるこの辺りは、江戸時代「北脇繩手」と呼ばれました。繩手(路)とは田の中の道のことです。東海道の整備にともない曲りくねっていた旧御郡大路を廃し、見通のよい道路としたことにちなむと考えられます。
江戸時代、東海道の両側には古に作り松並木がありました。街道は近隣の村々に掃除場所が割り当てられ、美しく保たれていました。旅人は松木陰に涼を取り、旅疲れを休めたといわれています。



東海道、北脇本町から南にある植へと伸びる津出道の入り口。
甲賀郡中野の中核とした山中民屋敷跡。中世に築かれた城館の一部が遺っています。



古墳時代としては跡をたいた規模の大型倉庫跡が三棟見えています。現在埋没のまです。



泉在所の東部から酒入への「リロ」酒入口と呼ばれています。

「現代版東海道絵地図」シリーズは、甲賀市内を東西に通る「東海道」と、下の4つの区間に分け手書きが描いたものです。東海道を歩いておられる方や観光やお仕事などで訪れた方にはもちろんですが、地元の方にもぜひご愛用ください。郷土の「宝」のすばらしさ、おもしろさをおいしく見つけていただければ幸いです。

【現代版東海道絵地図】(東の)

- ① 鈴鹿峠 土山宿 絵地図
- ② 大野地域～若上地域 絵地図
- ③ 水口宿 絵地図
- ④ 水口宿西見附～柏木～横田の渡し (今回)